

第2回（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会

議事要録

日 時	平成 20 年 9 月 17 日（水）
場 所	クリーンセンター 3 階会議室
出 席	寄本勝美委員長、田村和寿副委員長、早川峻委員、越智征夫委員、石黒愛子委員、広江詮委員、橋弘之委員、佐々木保英委員、前川智之委員、村井寿夫委員、井上良一委員、事務局（環境生活部環境政策担当部長、クリーンセンター所長他）傍聴者 6 名

1．フォーラムの報告

2．現クリーンセンター施設見学

3．現クリーンセンター施設に対する意見交換

副委員長：当時、こういう場所にしたら密閉形にした、その当たりの努力はどういう所にあったのか。

事務局：匂いをシャットダウンするには密閉する必要がある。ピットの臭気を炉の中に引っ張っているため負圧になっている。音が飛ばないように天井もコンクリートで囲っている。検査をすると、施設の騒音よりも虫の音の方が大きい。

副委員長：武蔵野のように場所のないところでやるのにコスト的にはどうだったのか。

事務局：高さを抑えるため地下を掘って、壁面を市庁舎と同様のタイル張り、7千本の植栽をした。将来大きくなる木ではなく、ある程度大きくなった高木を植えた。ざっと計算して倍になっている。

委員：中を見せていただくと磨耗しており、共通部分が修理できないといったこと、メンテナンスでお金がかかることを、全市民的にわかる様に数字が写真かビジュアル的に示すとわかりやすい。

委員：機械の部分は部品を換えればメンテナンスできる。しかし躯体部分はだいぶくたびれており、代替が利かない。だから建て替えしなければならないという形なのかと。部品がないから一つ一つ作らねばならず、コスト高になるというのはお金をかけてやればできるが、建物はどうしようもない。

委員：見た目はきれいだが肝心なところは劣化している。メンテナンスすればという話はあったが、換えたからといって元には戻らない。そういったところを市民に PR し、我々としてもそういう方向で進んでは。

委員：表面上はきれいに見えた。通るところはきれいにされているといわれていたが。他の施設も見ているが、柱が他に比べるとかなりごつい。灰ピットや汚

水周りは腐食しているだけでそんなに劣化している感じはしなかった。データベースで数値として示して欲しい。粗大ごみ処理施設は敷地で3分の1程度あるが、現在使われているのか。

事務局 : 正確なデータベースは次回。ピット関係は劣化しているが、建物自体は鉄筋コンクリート65年といわれており、もつ可能性は高い。基本構想に書いている30年というのは、ちょうどその時期にメンテナンスが来る。基本構想は簡単に触れているので、次回数値的に説明する。粗大ごみ処理施設はフル稼働している。武蔵野は最終処分場がなく、二ツ塚に持っていつている。不燃ごみは破碎し、金属を回収して可燃ピットに戻し全て焼却している。その灰を二ツ塚に持って行きエコセメント化しているため、武蔵野市では埋め立て処分を行っていない。

委員 : それぞれの部分で寿命が違うのが問題。コンクリート自体はしっかり作れば100年持つ。プラントは30年。配管配線はもっと短い。建設当時にはそのあたりをどうするかは思想はなかった。次はその辺をもう少し考えて。府中の電算センターを15年前に作った。コンピュータがたくさん入っており、窓は要らないが、窓があり電算センターに見えない。コンピュータが小さくなり、スペースが空いたときに他に使えるようにオフィスのようにになっている。焼却が将来どうなるか先を読んでやる必要がある。

委員 : 委員の中でも知識にギャップがあり、会が始まって30分くらいを委員が勉強する場にしてほしい。委員のレベルを同じにして知識を共有せねば。「パートナーシップ」(運営協議会20周年記念誌)は分かりやすいので、データベースも分かりやすい説明をつけて。定期点検の報告を見たこともあるが、前倒しして行っている。市民が情報を共有できる、市報の特集号であるとか検討委員会がどういう検討をしているのかわかるようなものをつくる必要がある。また、フォーラムの内容について市民にはどうゆう風に報告をするのか。

事務局 : 広報については委員会だよりを速報で出していく。フォーラムについては冊子をつくりたいが準備中。ホームページについても議事要録、委員会だよりをご確認いただければアップしていきたい。「季刊むさしの」に7ページ程度過去の経緯から委員会、フォーラムについて載せる。ケーブルテレビも活用している。

委員長 : 勉強会についてはあとで諮りたい。

委員 : ホームページを見られない人はどうするのか。市民感覚という意味で検討委員会の下に広報の小委員会等作ってわかりやすい市報の特集号のようなものが出来れば。

委員長 : 丁寧な広報に異論はない。傍聴の方に意見をもらうようにしたのもそのあたり。

4. 委員会の議論の進め方

- 1) 新施設の整備用地
- 2) 新施設のあり方
- 3) 新施設の周辺の地域のまちづくり

副委員長 : 3つのテーマが出されたが、市としてこの順番で議論すべきと思われるのか。順番は違うのではないか。どこにというのは交付金の問題等あり急ぐという事情はあるが、さっき言われたように、30年先を見込むのであれば、どういう施設を作るべきかという話がある。その話がどこに作るかよりも先に来るのでは。現施設建設当時、どこに施設を作るかという事が非常に大きな問題であった事は事実だが、当時の委員会の最大の成果は、自分の出したごみを自分で処理しなければいけないという事であり、全国に示した好例であったと思う。今語らなければいけないのは4箇所どうこうということではなく、どこに持って行っても受け入れられる施設はどうすればいいのか。先に場所を決めるというのはその場所の人に失礼。私ははっきり言うと今の場所に建て替えられるのが最良だと思っている。いろんな面から今の場所をどう使うかが最良だと思うが、場合により白紙にしてもかまわない。ここを前提とするとしてもどういう施設を作るかを最初に議論すべき。今回の委員会はあと6回しかない。そのあたりどう考えるか。

委員 : コンクリートは熱に弱い。オランダで堤防を作るのに石を持ってきて防潮に備えるという話がある。高温に強い材料を使って違う燃やし方があるのでは。コストについても、今ある最高の技術を使うのではない違う広げ方があるのでは。施設の分散という話もありうる。主婦目線で考えてみては。

委員 : 進め方について、1回目の委員会でまず様子が違うと思っていました。今までいただいた資料等見てみると、ごみ処理基本計画では新施設を既施設内の建替え用地を使用して新施設を建設する前提に書かれている。今までの委員会の流れは、この基本計画を白紙の状態にしてすすめようとしているように思える。基本構想はよくまとめられており、その中に課題は整理されている。スケジュールにもそんなに余裕がないと思うし、はじめに戻って議論していいのか。今までに検討し、整備した資料をベースにして進めていくようにしてはどうか。見直しもその中で議論ができると思う。他に3項の「周辺の地域の街づくり」というテーマは、取り上げるのが早すぎる。全体の議論が流れ出してからでもいいのではないかと思う。

委員 : 基本構想は検討されてきたものであり、時間的にも6回しかなく、その中で何も無いところからやるよりはこれをご説明いただいてどういう問題があるのか提起していただいてそれをやるべき。

- 委員 : 小さくまとまろうとしているが、世界でどんな処理をしているのか、加水分解とか超亜臨界とか、どんなものが武蔵野にふさわしいのかを考えるべき。エコセメントが将来も続くかわからない。本当のところ目指すのはどんなところなのか。周辺住民がノーと言った時どうなるのか。はじめからこの場所であると決めて進めるやり方は良いと思わない。
- 委員 : ゴールがどこにあってそれが何なのかと感じている。施設自体が待ったなしになっているのは事実であり、どういうことが問題なのかロードマップをつくるべき。あるべき姿と現状を比較してみるといい。広くやるのはいいが発散して迷宮に入ってしまうのではまずい。
- 委員 : 技術革新によりコンピュータは小さくなったが、当時は誰も予測できなかった。今我々が検討してもどんな規模のものを作ればいいのか全然わからない。その辺は先生方で決めていただいて、我々でも進める事ができるのは、どの場所に建てるか。委員会を市内のいろいろな場所で開催し、クリーンセンターでは来にくい人も来られるようにPRとしてスイングホールや商工会館、公会堂などで。順番としてはまず土地を決めるべきと考える。建て替え用地が用意されており、他の市民の人々は当然ここで建て替えられると思っている。この場所にあるという事には精神的な負担があり、公害や交通の問題もあるが市はいろいろやってくれており、いいパートナーシップがある。一般市民の方々に自分の問題として考えてもらうようPRするのであれば、市内各町で建設する場所を検討し、土地が無くても、市がやるとなれば強制収用というものもある。議論の順番としては先に土地を決めてから、次に規模を決める方が良いのではないか。
- 委員 : 土地の選定に対しては地元として苦しいところであるが、ここで建て替えざるを得なくなったのは、本来もっと建物を大きく作れば中でメンテナンスをする事が出来た。あの当時のものはお金を抑えるためにメンテナンスを考えていない。大都市の中で作るのだから、緑のバンドをつくり、市民に還元するレジャー的なものにしなければならず、相当大きな規模が必要。それが武蔵野のどこに当てはまるかをもう一度議論したい。
- 委員 : 少なくとも一度どういった状況なのか広報していかねばならない。新たな用地選定はそれを知らない限りどこになっても一緒。ごみだけではなくて環境全体を含めた啓蒙施設にしたいと提案している。どこに作るかが最初に決まれば理想的であるが、市内を考えると他に思い当たらないが、全市的なまちづくりの中に位置づけて、施設のあり方から検討いただいてその中で進めていただければ。せっかく作っているのに基本構想の説明がなく、どこにどう進んでいいかわからない状況にある。次回はじめに説明して欲しい。
- 委員 : 土地が先か施設が先かだが、こういう施設は国の施策がどうなるかで決まっ

てしまう。30年後に宇宙に持っていくことになるかわからないが、今は自分の出したものは自分で処理する。国の動きをどういう風に見通していくか。それが先ではないか。うちに持ってこられては困るだけで押し合い圧し合いしてもしようがない。来年3月を考えると夢のような話をしている暇はない。

委員 : 嫌な施設だということを払拭しなければ、最終的に適地がここだと合意されれば作ることになるのであろうが、どうせあそこだと思っている人が何も問題として捉えない。30年後には誘致運動が起きるような施設を考えたい。全市民の問題として自分の問題として考えてもらうのが市民参加だと思う。まだ自分自身の問題になっていない。短い期間であるが出来るだけ多くの人の話を聞く。あらゆる所で話題にして欲しい。マイナスの面も共有して欲しい。

副委員長 : 単純明快に議論すべき話ではない。この6回で場所を決めるだけで良ければ甘えてしまう。この6回でより良い施設にするためのコンセプトをたてられないか。そこに色々な意見を集約していくのが我々の役目では。また、本当にこの現施設は周りに何も問題を起こさなかったのか等も整理する必要がある。

委員 : 基本計画を読まれていない方もいらっしゃると思う。内容は、基本構想を受けて、市が環境およびごみ処理でどういう方向を向いていくのか書いてあるので、読まれた方がいい。また、別にわかりやすい形で、市側から一度説明していただくのがいいと思う。

委員長 : ここで委員会を閉めますが傍聴の方で意見のある方はどうぞ

(傍聴者の方の意見については別紙にて掲載)

事務局 : 議事要録を事前に配布しているが、確認いただき、よろしければホームページ及び市政資料コーナーで公開していきたい。訂正等あれば事務局まで。次回委員会が10月15日水曜日となっている。委員会を吉祥寺とか境でという意見があったが、今回はすでに広報してしまっており、クリーンセンターで。15日以降のスケジュールは個別に打診していく。許す限り密にやっていきたい。市報に開催を通知するのに1ヶ月前には日程を決めなければならず、大至急今後の皆さんのスケジュールを確認したい。町田資料をお配りしているので参考に。

了 (午後9時5分)